

# いこい通信

復刊  
第4号  
2019年2月

発行 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム

「いこい通信」は、宮城県内で避難者支援にあたられている方々に、福島復興の現状や福島県外避難者の置かれている状況、宮城県内における支援活動の様子等をお伝えする情報紙として発行しています。自らの意思に反して、全国への分散避難を余儀なくされた方々が、避難先で適切な支援につながっていくための一助となることを目的としています。

## ■ 福島県から避難されている皆さんのサロンを開催しています（その2）

福島から宮城に避難された皆さんが日常的に交流を深めることができるよう、誰でも気軽に参加できる「ふくしま仙台駅前サロン」を2018年5月から定期的で開催しています。年に数回、参加者みなで調理して昼食をいただくサロンを開催しています。

サロン「紙芝居&なみえ焼そば作り」では、浪江町民による団体「浪江まち物語つたえ隊」の皆さんから、町の被災を取り上げた映画「無念」の上映と、町に伝わる民話の紙芝居の上演をいただきました。その後、町の名物「なみえ焼きそば」や、参加者が採ったしじみを使ったしじみ汁をみんなで作り、いただきました。



2018.10.3 紙芝居&なみえ焼そば作り

おでかけサロン「いも煮会」では、バスや自家用車で、会場となったみやぎ蔵王えぼしリゾート（宮城県蔵王町）まで移動し、いも煮会をしました。山形風牛肉醤油味と仙台風豚肉味噌味、2種類の鍋をみんなで手分けして作り、おいしくいただきました。



2018.10.31 おでかけサロン「いも煮会」

サロン「三平汁&たこ焼き作り」では、浪江町の酒蔵（今は山形県長井市で操業中）の酒粕を使った三平汁とたこ焼きをみんなで作りました。それぞれの家庭ごとに調理の手順が違って、情報交換に花が咲きました。

調理の合間にふと「昔はよくこういう大鍋で作ったけど、最近はさっぱり作らなくなったね」という声が聞かれます。住環境の変化や、世帯分離による世帯人員の減少等、被災前とは違った今の暮らしの様子が垣間見えてきます。

これらのサロンは、独立行政法人福祉医療機構（WAM）「平成30年度社会福祉振興助成事業」の助成を受けて実施しています。



2019.1.16 みんなで三平汁作り